

福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 9 月 2 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (9/2 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.0 m ³ /h	30.1	3.9 kPa g	A系： 0.02 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.01 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.5 m ³ /h	37.9	6.48 kPa g	A系： 0.03 Vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.03 Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.3 m ³ /h	36.4	0.22 kPa g	A系： 0.06 Vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.04 Vol%

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (9/2 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	28.0
2号機	循環冷却システム	運転中	26.2
3号機	循環冷却システム	運転中	26.3
4号機	循環冷却システム	停止中	24.8 2

1 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘッドラジンの注入を適宜実施。

2 4号機使用済燃料プール代替冷却システム停止中の為、燃料プール水温度に関しては至近のデータを記載。(9/2 5:00 現在)

[4号機]

・H26/9/2 5:23 4号機使用済燃料プール代替冷却系について、当該系循環冷却設備一次系フレキシブルチューブの交換等を行うため、冷却を停止(停止時プール水温度:24.7)。停止期間は約 60 時間を予定しており、冷却停止時のプール水温度上昇率評価値は 0.266 /h であることから、停止中のプール水温上昇は約 16 と評価。運転上の制限値 65 に対して余裕があり、使用済燃料プール水温管理上問題はない。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	8/19 16:18 ~ 移送実施中

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (9/2 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)
運転 状況	運転中*1	運転中*1	停止中	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

・H26/8/20 ~ 今後、設置が計画されている高性能多核種除去設備の除去性能及び吸着材の交換周期等を検証するため、検証試験装置を用いて、実液通水による検証試験を実施。試験期間は3ヶ月程度を予定。

< 5. その他 >

- ・H26/1/29 ~ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔について、凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびバッカー挿入の作業を開始。
 - 4/2 ~ 挿入が完了した凍結管について凍結を開始。
 - 7/28 ~ 2号機海水配管トレンチ立坑Aの止水壁造成に向けた追加対策として、滞留水の冷却を目的にトレンチ内へ氷・ドライアイスの投入をすることとしているが、7/24、25に実施した試験投入の結果を踏まえ、7/28より氷の本格投入を開始。
 - 8/12 ~ ドライアイスを追加で投入開始。
- ・H26/3/14 13:35 ~ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。
- ・H26/6/2 ~ 凍土遮水壁工事を開始。
- ・H26/8/29 3号機使用済燃料プール内瓦礫撤去作業において、12:45頃燃料交換機の操作卓をクレーンにてつり上げるため専用治具で操作卓をつかもうとしたところ、操作卓が当該プール東側中央付近に落下。3号機使用済燃料プール内瓦礫撤去作業は遠隔作業により無人で行われており、作業員の負傷はない。3号機使用済燃料プール付近の線量は3.2mSv/hで通常値と変化はなく、発電所構内の線量とともに継続監視中。3号機使用済燃料プール代替冷却系については、8/25より停止していたが、プール水の放射能分析のため、8/29 14:37に起動。
- 8/30 水中カメラによる確認結果は以下のとおり。
 - ・使用済燃料プール内に散乱している瓦礫の堆積により、燃料ラックおよび燃料の目視確認はできなかった。
 - ・使用済燃料プール内に落下した操作卓と共に、操作卓が据えつけられていた架台の一部(約170kg)が落下していたことがわかった。
 - ・落下物の位置、使用済燃料プール内の機器材の配置により、落下物は燃料ラック上部に設置している養生材に落下した後、燃料ラック上部の瓦礫の上に着床したと推定。
 - ・落下物の下部に燃料が2体あることをお知らせしたが、水中カメラの確認による落下物の位置から、落下物の下部に燃料が10体程度あることを確認。
- 3号機使用済燃料プール水の放射能分析と関連パラメータ
 - < 使用済燃料プール水の放射能分析の結果(採取日:9/1) >
 - ・セシウム 134: 2.2×10^2 Bq/cm³
 - ・セシウム 137: 6.6×10^2 Bq/cm³
 - ・コバルト 60: 検出限界値未満(検出限界値: 1.5×10^0 Bq/cm³)
 - < 関連パラメータ(9/1 16:00 現在) >
 - ・モニタリングポスト : 有意な変化なし
 - ・原子炉建屋オベフロ雰囲気線量 : 有意な変化なし
 - ・使用済燃料プール水位 : 有意な変化なし
 - ・スキマサージタンク水位 : 有意な変化なし
- 分析結果については、前回と比較して有意な変動がないこと、また、関連パラメータに有意な変動がないことから、燃料破損等の兆候は確認されていない。
- ・9/2 9:35 5・6号機 3重油タンクは、震災当時津波の影響により、容器が変形・破損し内部の重油の一部が流出。現在も当該タンク内部には、約135キロリットルの重油が残存していることから、3重油タンクから残油を積載式移動コンテナタンクに回収し、構内の2屋外危険物貯蔵所に保管する作業を開始。

[地下水バイパス揚水井の状況]

- ・地下水バイパス揚水井 No.1 ~ 12 のサンプリングを継続実施中。
- ・1 ~ 4号機原子炉建屋等への地下水流入抑制対策として設置した地下水バイパス設備について、地下水バイパス一時貯留タンクグループ1の当社および第三者機関による分析結果[採取日 8/25]については同等の値であり、ともに運用目標値を満足していることを確認。

[H4, H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連]

- < H4エリア周辺のサンプリング実績 >
 - ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。
- < 福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績 >
 - ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。
- < H6エリア周辺のサンプリング実績 >
 - ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[タービン建屋東側の地下水調査 / 対策工事の実施状況]

< 地下水観測孔サンプリング実績 >

- ・ 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績]

< 地下貯水槽サンプリング実績 >

- ・ 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上